

記 入 日 2015 年 1 月 15 日

1. 概 要

| | | | |
|-----------|-----------------------------------|-----------------|------|
| 実践団体名 | 防災腹話術研究会 | | |
| 連絡先 | 代表 荒井 勳 (いさお) 電話・Fax 078-787-7387 | | |
| プランタイトル | 防災腹話術・手法の確立と展開 | | |
| プランの対象者※1 | 小学生低・高学年、中学生 | 対象とする 災害種別※2 | 災害全般 |

【プランの目的・ここがポイント!】

- 1、防災腹話術研究会を設立。
- 2、仲間を集めて研修会を重ね、実演者の養成をはかる。
- 3、防災腹話術の実演と広報活動を行う。
- 4、基本となる教本を作る。

【プランの概要】

- 1、教本の完成と印刷 200 部
- 2、防災腹話術の実演希望者を集め 10 回の研修会を開催した。
- 3、研修を受けた仲間と演習を兼ね防災腹話術の出前を実施した。
- 3、腹話術仲間と交流を深め、防災腹話術のネットワークを徐々に構築する。

【期待される効果・ここがおすすめ!】

- 1、中間報告会で、先生方の意見を聞き、修正・校正を進め完成させ 200 部印刷した。完成した教本を関係者に贈呈。昨年末約 100 名の腹話術関係者からの贈呈依頼あり、あすなろ腹話術協会を通じて配布。実行委員会の先生方に資料として 30 部配布。残約 70 部を最終発表会の会場で配布する。反応が楽しみ。好評であれば再校正して増刷予定。
- 2、仲間と防災腹話術の出前を繰り返し、1 年でほぼ神戸市内に活動が広がった。
2 年目には全県展開したい。現在実演出来るものが 10 名ほど育った。脚本さえ配布すれば一気に増える事が予想出来る。3 年有れば出前の全国展開も夢ではない。
- 3、防災腹話術教本の配布で、防災腹話術のネットワーク構築への弾みが付く。皆さんの意見を共有して脚本の、修正や続編を作ると、防災腹話術が、新しい防災教育の爽やかな風となって全国を吹き抜けるであろう。かなりの汗が必要であろうが、楽しみである。

2. プランの年間活動記録 (2014 年)

| | プランの 立案と調整 | 準備活動 | 実践活動 |
|------|-------------------------------|-----------------------------------|--|
| 4 月 | 防災腹話術教本の 構成立案 | 会場予約と (研修) 資 料づくり | 7 日 防災腹話術研修会開催① |
| 5 月 | 教本の執筆 | 研修会の会場予約と資 料づくり | 5 日 防災腹話術研修会開催② |
| 6 月 | 教本の執筆 | 研修会の会場予約と資 料づくり | 2 日 防災腹話術研修会開催③ |
| 7 月 | 教本の執筆 | 研修会の会場予約と資 料づくり | 7 日 防災腹話術研修会開催④ 26, 27 日 あすなろ全日本腹話術協 会夏合宿参加、実演広報活動 |
| 8 月 | 教本の執筆 | 研修会の会場予約と資 料づくり | 2 日 人と防「防災未来学校」実演 4 日 防災腹話術研修会開催⑤ |
| 9 月 | 教本の執筆 中間発表の内容検 討 | 研修会の会場予約と資 料づくり・中間発表資 料づくり | 1 日 防災腹話術研修会開催⑥ |
| 10 月 | 防災腹話術教本ゲ ラ刷り完成中間発 表会へ提出 | 研修会の会場予約と資 料づくり | 6、7 日 東京中間発表会参加 3 名 1 3 日 防災腹話術研修会開催⑦ |
| 11 月 | 教本の修正執筆 | 研修会の会場予約と資 料づくり | 3 日 防災腹話術研修会開催⑧ |
| 12 月 | 教本の校正 | 研修会の会場予約と資 料づくり | 1 日 防災腹話術研修会開催 1 3 日 防災教育セミナー開催予定 (台風で暴風雨警報の為中止) |
| 1 月 | 教本の印刷 | 研修会の会場予約と資 料づくり・教本の配布 準備 | 5 日 防災腹話術研修会開催⑨ 1 7 日 防災腹話術公開 (県安全の日 防災イベント) |
| 2 月 | 最終報告会の内容 検討 | 研修会の会場予約と資 料づくり・最終報告会 資料づくり | 2 日、防災腹話術研修会開催⑩ 2 1 日東京最終報告会参加 3 名 |
| 3 月 | | | |

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号： 1】※3

| | |
|----------------------|--|
| タイトル | 防災腹話術教本の制作 |
| 実施月日（曜日） | 平成 26 年 4 月 1 日～12 月 15 日 教本の執筆・校正・修正再校正 |
| 実施場所 | 神戸市垂水区・代表者宅 |
| 担当者または講師 | 担当者（著作者）防災腹話術研究会 代表 荒井 勳 |
| 所要時間または「コマ数×単位時間」 | 執筆・推敲・校正を繰り返した。原案執筆約 3 カ月・校正、修正の繰り返し半年約 10 カ月で印刷にこぎつけた。 |
| プログラムのカテゴリ、形式※4 | 1 7、その他（防災腹話術教本の制作） |
| 活動目的※5 | 2、防災に役立つ資料・材料づくり。 |
| 達成目標 | 防災腹話術教本を作る。 |
| 実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー） | 1、原稿の・構成・執筆・推敲 2、仲間と教本の読み合わせ・校正 3、中間報告会で実行委員会の先生方 3 人に校正依頼 4、再修正して印刷 |
| 準備、使用したもの・人材・道具、材料等 | 1、防災腹話術教本の素案原稿 2、防災資料 3、背本材料 |
| 参加人数 | 著者は一人・毎回 6～8 人で実演しながら校正 |
| 経費の総額・内訳概要 | コピー印刷費約 50,000 円と製本材料費約 5,000 円 |
| 成果と課題 | 【成果】 実行委員会の先生方の助言もあり、とても良い教本が出来た。 【課題】 予算の助成金半減以下になり、自ら手製の製本をしいられた。200部しか出来なかったが、出来れば500部位作り希望者へ、全国配布をしたかった。。 |
| 成果物 | 防災腹話術教本 200部 |

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 2 】※3

| | |
|-----------------------------|---|
| タイトル | 防災腹話術研修会の開催 |
| 実施月日（曜日） | 平成 26 年 4 月 7 日～27 年 2 月 2 日・毎月第 1 月曜日・10 回開催 |
| 実施場所 | 神戸市勤労会館（神戸市中央区） |
| 担当者または講師 | 担当者 氏 名：荒井 勤 所属・役職等：防災腹話術研究会 代表 |
| 所要時間または「コマ数×単位時間」 | 13 時 30 分～16 時（2 時間 30 分×10 回）計 25 時間 |
| プログラムのカテゴリ、形式※4 | 2、講習会・学習会・ワークショップ |
| 活動目的※5 | 2、防災に役立つ資料・材料づくり 7、技術を身に付ける |
| 達成目標 | 防災腹話術を演じる技術を身につける |
| 実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー） | 1、教本の読み合わせと校正 2、発声練習 3、防災腹話術の実演練習 4、防災技術を学ぶ |
| 準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等 | 1、防災腹話術教本の素案 2、腹話術人形 3、防災資料・教本 4、研修室 |
| 参加人数 | 毎回 6 人～8 人 |
| 経費の総額・内訳概要 | 貸室料 1,700×8・2,500×1・3,200×1・合計 19,300 円 |
| 成果と課題 | 【成果】 少人数であるが、防災腹話術の実演者を育てた。 市民救命士の講習会を開催して終了証を頂いた。 【課題】 研修会の貸室が固定できなくて、室料がバラバラになった。 |
| 成果物 | 防災腹話術教本の集団校正でゲラ刷りが完成した。 |

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 3 】※3

| | |
|-----------------------------|--|
| タイトル | 防災教育セミナー「防災教育の新しい風」開催 |
| 実施月日（曜日） | 平成26年12月13日 |
| 実施場所 | 勤労会館 |
| 担当者または講師 | 講師 氏 名：林 春男 所属・役職等：防災教育チャレンジプラン 実行委員長 |
| 所要時間または「コマ数×単位時間」 | ・1部11時～13時 ・2部14時～16時30分 |
| プログラムのカテゴリ、形式※4 | 3、講演会・シンポジウム |
| 活動目的※5 | 6、防災に対する知識を高める |
| 達成目標 | 1部は防災教育チャレンジプランの西日本版（試行） 2部は林先生の講義を聞いた後、防災腹話術の一般公開 |
| 実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー） | 1部は防災教育チャレンジプランの西日本版（試行）と言う事で進行を船木先生にお任せした。諏訪先生が前年度の西日本の実践団体とトークショーをした。木村先生も参加してくれた。当会が場所を提供した。 2部は、当会が何とか防災腹話術の広報をはかりたいと、林先生に講演を依頼、集まったお客さんの前で仲間と防災腹話術を披露。 *定員70名の部屋が満員の盛況であった。 |
| 準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等 | 1、セミナー室 定員70名 2、マイク・プロジェクター・スクリーン 3、椅子・机神戸市中央区・神戸市 |
| 参加人数 | 75名 |
| 経費の総額・内訳概要 | 1部は不明だが、2部は手弁当の持ち寄りで経費を押さえた。6000円位 |
| 成果と課題 | 【成果】 実行委員の先生方の協力も有り、とても有意義なセミナーとなった。満室になったのも成果の一つ。他団体との交流も出来た。 【課題】 セミナーを当会の単独でやる計画であったが、西日本の先生方が場所に困っていたので合流した。結果は良かったが準備が大変であった。 |
| 成果物 | |

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

4. 苦勞した点・工夫した点

| | |
|---|---|
| <p>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</p> | <p>地域の防災イベントの開催ではなく、新しい形の防災教育の手法を考案したいと考えていたので、実現するまで何かと思案を重ねた。 丁度、東日本大震災の災害支援をした時期と重なったので、体験を防災教育に生かしたいと、脚本作りに苦勞した。</p> |
| <p>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</p> | <p>まず、自ら腹話術が出来なければ前に進めない、腹話術の教室に通い修業を積んだ。人前で実演出来るまで2年かかった。 いわゆる表面に出ない下積みの時代である。 私自身の腹話術経験は現在5年目に入り、柔道で表現すると2段位で、今年3段まで進級の努力をしたいと考えている。</p> |
| <p>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</p> | <p>腹話術の笑いと防災教育の勉強と、相反する形の融合に苦勞した。 苦勞しながら解かった事は、融合する必要が無いのである。 笑いとお勉強の壁を、行ったり来たりする世界であり、そのぶれが大きいほど、インパクトが有り、記憶にも残ると感じた。 実際に脚本にしてみたものの、実演するとつまらないもの、くだらないものも有り、何度となく書き換えた。 当初300,000円の助成予算で申請していたが100,000円の決定となり、資金繰りと活動の展開規模修正に苦勞している。 資金は無くても知恵を出して、地域イベントと言う視点ではなく、全国に防災教育の新しい風を吹き渡らせたいと思っている。大きな風呂敷を広げているように思われるかもしれないが、大きな風呂敷ほど、風を沢山捉えるものだ。目標は大きいほど楽しいし、やりがいがある。</p> |

5. 他の団体、地域との連携

| 協力・連携先の分類 | 団体名、組織名 | 協力・連携の内容 |
|-----------------------------|--|--|
| 学校・教育関係・ 同窓会組織 | 兵庫県立舞子高校 環境防災科 神戸市立高倉中学校 芦屋市立精道小学校 神戸学院大学 | 防災腹話術の実演 防災腹話術の実演 防災腹話術の実演 防災腹話術の実演 |
| 保護者・ PTAの組織 | | |
| 地域組織 | 北神星和台ふれあいの町づくり協議会 川西市西戸田防災福祉コミュニティ 灘区鶴甲団地自治会連合会 | 防災腹話術の実演 防災腹話術の実演 防災腹話術の実演 |
| 国・地方公共団体・ 公共施設 | 人と防災未来センター 中央区社会福祉協議会 須磨区社会福祉協議会 ひょうご安全の日推進県民会議 | 防災腹話術の実演 防災腹話術の実演 防災腹話術の実演 防災腹話術の実演 |
| 企業・ 産業関連の組合等 | | |
| ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等 | 上富田ふれあいルーム いなみの高齢者大学神戸友の会 | 防災腹話術の実演 防災腹話術の実演 |
| 職業、職能団体・ 学術組織、学会等 | 全日本あすなる腹話術協会 | 防災腹話術の実演 |

6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

| | |
|-------------------------|--|
| 成果として 得たこと | <ol style="list-style-type: none">1、一番のベースとなる防災腹話術教本が完成した事。2、防災腹話術を実演出来る仲間が育っていること。3、これから全国展開が、予測できる事。 |
| 全体の反省・ 感想・課題 | <p>ボランティアベースで協力者をいかに育てるかは、課題が多い。既に腹話術の技術を身につけている人に、協力をお願いすると、組織として拒絶反応を示すことがある。その辺の対応もこれからの課題である。</p> <p>かといって防災も腹話術も興味ない人に、一緒にと声をかけても、結果は見えている。</p> <p>少しづつ絆を広げて行く事が大切に思える。</p> |
| 今後の 継続予定 | <p>69 歳になった今、最後の仕事として、防災腹話術で防災の社会を、一市民が耕してみたいと燃えている。そんなきっかけをくれた防災教育チャレンジプラン実行委員会に感謝している。</p> |

7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。

*写真で活動の現場報告をします。

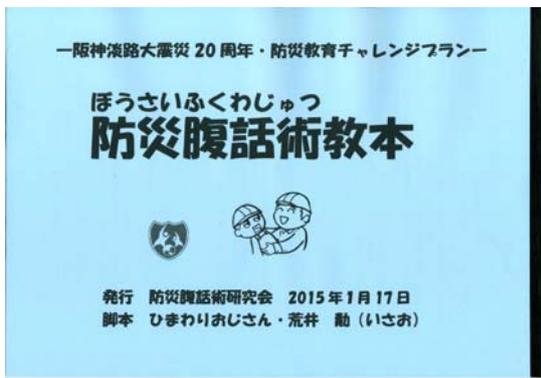
1、防災腹話術の研修会風景①



防災腹話術の研修会風景②



2、完成した教本①



②教本の目次



3、防災教育セミナー① (26年12月13日)



4、防災腹話術出前の事例 (トイレの話)



(自由記述: 1/3)

(自由記述: 2/3)

(自由記述: 3/3)